

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット/ 北)

事業所番号	2794200622		
法人名	株式会社WAN		
事業所名	グループホームお多福の家		
所在地	茨木市 真砂玉島台10番26号		
自己評価作成日	令和3年8月10日	評価結果市町村受理日	令和3年9月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和3年5月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者様一人一人にとっての「我が家」であるように、「家」という点にこだわりその人がその人らしく生活を実現できるようにケアを行っていけるように実践。</li> <li>・「家」での生活にプラスし、認知症ケアの部分においても「個性」を活かしたケアを実践。</li> <li>・幼老一体型施設である点を活かし、世代間交流が日常的に行える。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>平成30年3月に開設された当事業所“お多福の家”は「慈しみと暖かさに包まれながらの生活を提供」の理念を掲げる(株)WANを事業母体としている。グループホームと放課後デイサービスを一体とする複合施設として、クリスマス・敬老の日のプレゼントや放課後時に来所する学童との“ただいま・おかえり”の挨拶を交わすなど、幼老交流の環境は日常的にある。(現在は様々なイベントの交流は控えている)穏やかで過ごしやすい我が家づくりに管理者・職員は利用者に寄り添い、常に声掛けを心掛けながら日々のケアに努めている。法人代表が医師で、法人関連の訪問看護ステーションとの連携も密できめ細かく、健康・医療管理は万全の体制となっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者・スタッフ共に理念の共有をした上で、利用者様にとってより良い認知症ケアを行えるよう悩みや疑問等を十分に共有し実践に繋がられている。 現在、コロナ過であり新たな職員への意識の共有等は状況を見ながら今後も実施予定。	法人理念を念頭に各ユニット毎で創った目標「皆の思いやり・気持ちに寄り添い、分かち合う」「お多福の家で和気あいあい」を掲げ、毎月ユニット会議で意識の徹底と確認を行いながら、ケアの充実を図っている。“ありがたいの気持ち、利用者の事をよく知る、利用者・職員を思いやる”等の趣旨の方針を全体で共有し実践に励んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年度は、自治会へ賛助会員という形で参加を果たしたが現在コロナ過であり、日常的な交流はできていない。	自治会に賛助会員として加入し、地域の情報は随時受けている。コロナ禍以前は地域の夏祭りの参加や事業所主催の秋まつりの参加の呼びかけ、近隣の高校生の体験学習の受け入れ等行っていたが、現在は自粛している。	若い世帯が多い新興住宅街の中にあり事業所として、地域交流の機会が取りにくい環境下にあるが、各種のボランティアの要請や併設の放課後デイサービスの保護者との交流を模索し、地域の中の福祉施設としての確立を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度については、上記に記載通りコロナ過であり、状況を見ながら活動を考えていきたい。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催した時には、ご家族様からの意見などをサービス向上に活かす努力を行っている。年明け後、新型コロナウイルス対策の為、開催できていない。今後、状況を見ながら開催を行い、家族様からの意見をいただき更なるサービスに向上を図りたい。	運営推進会議の実質開催は、1回で管理者・ケアマネジャー・地域包括職員の参加(コロナ禍の状況を鑑みて)で行っている。5回は文書での議事録とし、市の福祉指導監査室の了解を得ている。コロナ沈静後は地域の自治会長・民生委員に参加要請を新たに推し進め、構成メンバー充実に努めたいとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から、地域包括と連携を図り空室状況等を伝えるなどの働きかけを行っている。 過去に、地域包括からご紹介してもらった困難事例のある方を受け入れ今は穏やかに生活されている。	市の長寿介護課・福祉監査室とは頻りに連携を取り合い、情報や指導・アドバイスを得ている。市のケア倶楽部からの発信情報はオンラインで得ている。地域包括支援センターから、共同生活困難の方の受け入れ要請に応えた事例もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3カ月に1度、身体拘束・人権擁護高齢者虐待防止委員会を開催しスタッフ全体に周知を行っている。現状、身体拘束は行わないケアに取り組んでいるが、不適切な対応など見受けられた場合にはその都度委員会等に議題として話し合いを実施するよう取り組んでいる。	研修や身体拘束適正化委員会(3ヶ月に1度)を通して、身体拘束の内容と弊害を職員は理解している。不適切な言動の際にはその都度、管理者が注意を促し指導をしている。玄関は施錠しているが、要望に応じて玄関先の庭に出て閉塞感解消に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様、委員会を開催し日々のケアの中で虐待に繋がりそうなケアはないか確認を行いながら、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	研修やカンファレンスの時間を設け、その中で権利擁護やそれに付随する制度について理解を深められるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明等については、しっかりと行っているが日々の中で出てくる疑問等についてもその都度説明を行い、理解・納得していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で聞き取りを行った上で、管理者やCM初めスタッフと共に検討を行い、運営に反映できるように実施し、外部者へも公表できるように努めている。コロナウイルスの影響で、聞き取りなどできない場合も電話連絡やメールなどの手段を用いて可能な限り聞き取りを行えるよう努めている。	意思の表出が出来る利用者(約半数)には日頃のケアの中で傾聴している。意見が出にくい人は表情や動作での把握と、家族の訪問時に話しやすい雰囲気に関心掛け聞き出している。遠方やコロナ禍緊急事態宣言下では電話やオンラインで傾聴し、家族の要望が多い面会においては、各ユニットの玄関のガラス窓越しで対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	概ね、月に1度ユニット毎のカンファレンスや適宜面談を実施しその中で出た意見や提案をまとめ管理者から代表者へ報告行った上で検討し反映できるように努めている。	ラインワークスシステムを導入し、日々のケアでの気づきや提案は随時記入している。毎月のユニット会議に出る意見は全体で検討し改善に繋げている。現場での改善が困難な事例は法人と相談している。放尿の頻度が多い人の対応にリハビリパンツを使用し、放尿回数を減らす。又、嚥下状態悪化の人の食事形態の見直しの意見に応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々、スタッフからの声を聴きとれる様コミュニケーションを図り、必要に応じて適宜面談等の設定などを行い集約。必要に応じて代表者に伝え面談を行えるよう整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のケアへの考え方や捉え方・介護技術などスタッフに応じた力量などを把握し外部研修・内部研修・勉強会またはそのスタッフに応じた個人的な指導を行えるように努めている。昨年度同様コロナ過による、感染防止対策により思うようには実施できていない為、今年度はリモートなど取り入れて積極的に取り組んでいきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	茨木市ケア倶楽部などから情報把握に努め、同業者とのコミュニケーションの場にも出向き、ネットワークづくりなどを積極的に行えるよう努めている。コロナウイルスの兼ね合いもあり、今年度に入ってから、様子を見ながら取り組んでいる状況。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活する中で、家族様からの情報収集などもしっかりと行い、本人にとって安心した居心地の良い安心できる場所の確保ができるよう関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っている事、不安な事について要望があった場合ではなくこちらからも声掛けを行う様に努めて、よりよい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在、会社内に訪問看護ステーションも設立されたので今後はグループホームとしては、弱い「医療面」なども入居時からフォローアップしていけるように対応を行っていく予定。その他のサービスについても適宜見極め対応に努めている。 実際に訪問看護を利用し、コロナ過において病院へ行く事を最小に押さえ家族様や利用者様の負担の軽減に繋がっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフ一人ひとりが、お多福の家のコンセプトやグループホームとしての在り方を理解した上でケアにあたっている事もあり、そういった関係を築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人からの要望があった際には、家族様へお伝えし家族様との絆を感じていただけるようにスタッフ一丸となり支えていける関係を築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人との普段の会話などもしっかりと聞きとる中で、家族様からお話を伺いながらできる限り関係が途切れないように支援していけるように努めている。	地域在住の友人・知人や親族の訪問や、家族同行での墓参り・外出は以前は行っていたが、現在はこれまでの関わり方が困難となっている。電話・手紙の取次ぎはキーパーソンの方の了解を得て支援している。コロナ対策下における面会として、各ユニットの玄関の窓越し対面を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフは、利用者様同士の関係性を把握した上で孤立する方がいらないように支援を行っている。また、利用者様同士も気づかいの言葉などを掛け合える様な関係を築けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、可能な限り相談・支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向を大切に生活していただけるよう、可能な限り努めている。	居室担当者が中心となり、リラックスできる入浴時や会話が弾む食事中に思いや意向を聞く機会がある。その人らしい暮らし方を職員全体で検討しながら“好きなこと・嫌いなこと”を掴み取り、ラインワークスや個人記録で共有し、計画作成に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段話される内容やご家族様からの聞き取りなどを行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の生活の中でしっかりと状況を確認しながら現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス・担当者会議にて、日々の変化からの気づきや意見・アイデアを出してもらい介護計画作成を実施できるように努めている。	毎月1度のカンファレンスと3ヶ月毎のモニタリングで、一人ひとりの状態を計画担当者を中心に検討している。医師の居宅療養管理指導書や看護師の所見を参考に利用者・家族の要望を事前に聴き取り、計画作成を行っている。新・更新計画書は面談での説明と同意を得ているが、不可能な人には郵送で、内容は電話で説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ間での気づきも多くあり、個別記録・申し送りなど密に行い、介護計画の見直し等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時によっては、多少のズレなども生じるが都度確認を行いながら、柔軟な支援やサービスの多機能化ができる様に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	茨木市ケア倶楽部を活用し、以前よりは地域資源の把握を行えているがコロナウイルスの事もあるので現状満足いく活用とまでは至っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	代表がかかりつけ医であり、コロナ渦であっても週2回の往診で都度適切な医療を受けられるように支援を行えている。状態の変化があった場合は、すぐにご家族様への報告も行っている。	代表がかかりつけ医であり、本人、家族の同意の下、利用者全員、内科を週1回の訪問診療を受診している。(従来は週2回の訪問診療であるが、利用者が現在落ちついた状態にあり、コロナ禍で緊急事態宣言中の為)、何か変化があれば、即対応できる。歯科も週1回ある。専門性を必要としている利用者は家族同行で受診している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者・スタッフ間において日々連携する中で、ナースへの報告・相談も必要に応じて適宜行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院者がいる場合は、病院関係者とも密に連絡が取れるよう努め、早期退院に努めている。現在、入院者はいない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期に関する説明を入居契約段階で実施している。現在、重度化には至っていないが大きな状態変化があった場合には十分な説明を行っていくようにしている。	重度化や終末期に向けた指針、方針を作成し、契約時に説明して家族の同意を得ている。看取り事例はないが過去、終末期対応が必要となった事例がある。家族の意向を踏まえて医師、職員が密に連携を取り、全職員で話し合いを繰り返し、看取りの研修を行うなど事業所としての最大のケアに努めた。現在は回復し普通の生活に戻っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアル等の設置を行い、周知を図る。今後もマニュアル等を元に定期的に研修等を設け実践力を身に付ける努めたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアル等を設置し、定期的に避難訓練の実施を行っている。	毎年、2回、防災避難訓練を実施(消防署立会と自主訓練の夜間想定と日中訓練の2回)している。「火災、地震、風水害」の災害マニュアルは一通り作成しているが、更に実践的なマニュアルを作成中である。近隣は新興住宅地で地域との協力は難しいが2名の夜勤者と1名宿直者の体制となっている。備蓄(水、レトルト食品など)は3日分位用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権擁護・虐待防止委員会の実施を行い、グループホーム全体で現状の把握を行い普段の声掛けやケアの中で不適切なものはないかなど、カンファレンス時に問いかけたりしながら不適切ケアがあった場合にはすぐに対応できるよう努めている。	プライバシーの確保・接遇で留意していることは排泄時、入浴時などでは利用者の名前を呼ぶのではなく、記録は部屋番号で申し送りなどはしている。入室時にはノックが「失礼します」など声かけをして、ケアについて不適切な言動があれば、お互いが注意を促している。個人情報の取り扱いは事務所、ユニット内の鍵のかかる引き出しに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアプランを元に、ご本人の希望や意向の表出を行い、自己実現・自己決定の支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人自身の性格や生活リズムなど、その人のペースを大切に希望に沿って支援ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身では難しいかたについても、モーニングケアの際などに一緒に鏡を見て髪をとかしたり、髭を剃るなどその人の意向に沿いながら支援を行う様努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の食事の準備や食事レクなどの際には、利用者様へ一緒に行っていただけるように声掛けし促すよう努めている。現在は、コロナウイルスの影響もある為自粛傾向ではあるも、全くしてもらわないではなくしっかりと感染対策を行い実施していただいている。	クックチルの配食を利用し、ご飯、汁物は事業所で作り食事提供している。コロナ禍中ではあるが、感染対策に留意し、できる範囲でテーブルを拭いたり、盛り付け、後片づけを行うなど、一緒に食事の用意を行っている。職員は弁当持参で、食事中は見守りに徹している。検食は検食簿にて管理している。従来のお誕生日会は外食をしていたが、コロナ禍になって、本人の希望の弁当、ケーキなどを注文し、職員と食している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月初に、体重測定の実施。3カ月に1度の血液検査などを実施する中で状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の状態を把握しながら、適宜声掛け等を行いながら実施していただいている。また、歯科訪問診療の際に口腔ケアに必要な情報を確認している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表への記入を行い、その人のリズムや間隔の把握に努め、自立に向けた支援を実施。	排泄チェック表の活用により、個々の排泄パターンの把握に努め、トイレでの排泄が出来るよう自立に向けた支援をしている。現在、14名の利用者は自立で、後は軽いパットやリハビリパンツを利用している。過去に布パンツへ2名の方が改善した事例がある。トイレ誘導時の失敗があっても「大丈夫ですよ」と声掛けに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	現在、コロナ渦の中で運動量の低下などもあるので施設内を散歩するなどして適度な運動を行ったり、便秘の改善が見られない場合にはDr・NSへ報告相談し、状況に応じて下剤を使用し排便コントロールに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	可能な限りその人の希望やタイミングにて支援を行えるように努めている。	入浴は週2回を基本とし、時間は特に決めてはいないが午前中が多い。現在、それ以上に入浴を希望する人はいないが、今後希望者があれば対応したいと考えている。重度の人には、その日の身体状況を見て3名の方がリフト浴を利用している。同性介助を望む人は2名いる。何れも個々の希望に沿った支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、安眠されると昼夜逆転などの懸念もある為、昼寝・夕寝などその人の体調や状態に合わせて実施できるよう支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく処方があった場合など、薬情をユニットにも保管し各スタッフが把握に努めている。また、降圧剤・利尿剤などの服用開始の際には副作用などの症状伝え様子観察できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現在はコロナウイルスの影響もあり、満足いく支援は実施できていないがご本人のお誕生の月にはご本人の意向確認を行いご家族様協力の元楽しんでいただけるよう支援行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り、外出支援に努めているがコロナウイルスの影響もあり思う様な支援には至っていない。ユニット毎の玄関を使用し、庭先に出てお花を楽しむなどの支援は適宜実施できている。	これまでは日常的に散歩したり、近くのバラ公園や万博公園、銭湯など希望の場所に行く機会もあったが、コロナ禍で自粛となり、敷地内の庭先で花を楽しんだり水やりなどで外気浴をしている。「外食気分を少しでも味わう気持ちを」と理事長の知り合いの調理専門シェフの協力で家族も含めた「バイキング」形式の昼食会を開いて利用者、家族に大変喜ばれた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お小遣いを所持されている方もいらっしゃるがコロナウイルスの影響で自身で買い物へ行きその方の希望通りの買い物などへは行けていない状況。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様へも確認をし、可能な方に関してはある程度自由にやり取りをしていただけるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の部分に関しては、生活リハビリの一環として一緒に掃除をしていただく事で生活感を取り入れるよう支援している。また、季節感に関しては月変わりで居間の飾りつけなどを作成し飾りをする事で感じていただけるよう支援に努めている。	施設感をなくして一つの家庭で居心地よく暮らせるよう工夫と配慮をしている。三分の一(6名)は利用者の出来る範囲で、職員と一緒に床や、手すり等「空間除菌スプレー」を使って掃除に力を入れている。壁には季節に合わせた手作りのひまわり、アジサイ、七夕などの貼り絵やぬり絵を一緒に飾って、家庭的雰囲気を作るように工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部がやや狭いこともあり、独りになれるような場所は現状設ける事はできていない。居室＝家という認識で一人になりたい方や気分を落ち着かせる為には自室を利用されている方もおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の調度品に関しては、入居前に使用していた物などを持ち込んでいただいたり、馴染みの物を置く事で居心地よく過ごしていただけるよう工夫を行っている。	各居室には冷暖房、防災カーテン、鏡付きの洗面台が設置されている。自宅から持参した馴染みの家族写真、テレビ、タンスなど置物や飾り物が、その人らしい従来の使い勝手の良い環境になっている。週1回、職員がシーツ交換する際を利用して利用者も可能な範囲で一緒に生活リハビリとして部屋の整理、整頓を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	やや、狭い部分もあるが狭い事を活かし導線の確保などもしやすい為安全かつできるだけ自立した生活に繋がるよう支援が行えている。また、トイレの場所などもわかりやすく表記する事で自立した生活に繋がっている。		